



# 原小だより

～つよく 正しく 朗らかに～

7月号

令和7年(2025年)

6月24日

宇部市立原小学校



## 大谷選手の投手復活に思う

校長 早川 真司

皆さんはどのような趣味をおもちですか？

わたしもいろいろと趣味がありますが、その一つは広島カープの応援です。スタジアムに行き、スクワット応援を繰り返すことも楽しければ、監督になり切ってあれこれと采配を考えてみるのも一興です。なかなか勝ってくれないチームだからこそ、勝利の味は格別です。野球と言えば、子どものころは王選手が現役で、先日亡くなられた長嶋監督が指揮を執っていました。王選手がいつハンク・アーロンを抜いて世界一のホームランバッターになるのか、固唾をのんだものでした。

その野球を代表する選手と言えば大谷選手。先日、久しぶりに投手として登板したそうです。打って、投げ、走る、と野球の才能は言うまでも無く、ベンチやグラウンドでそっとゴミを拾うなど、その人柄も賞賛されている大谷選手は、どうやって夢の舞台で活躍できるようになったのでしょうか。

大谷選手が高校1年生の時に、当時の野球部の監督の教えで「マンドラート」と呼ばれる目標達成シートを作成したそうです。このマンドラートは、真ん中のマスには、最終的に目指す高い目標、そして中央の3×3のマスには、高い目標を達成するための要素、シート外側の3×3のマスには、8つの要素を達成するための具体的な項目を書き込むようになっています。

マンドラートを作成すると、自分の夢を実現させることに必要なことと、何をすればいいのかが具体的に見えてきます。

高校1年生の大谷選手の素晴らしいところは、「コントロール」や「変化球」、「体づくり」など、野球に直接関係することだけでなく、「人間性」を大切にしていることや、自分ではどうすることもできない「運」ですら、手に入れようとしていることです。大谷選手が書いているように、「あいさつ」や「ごみ拾い」をしたからといって、必ず幸運が舞い込むわけではないでしょう。しかし、目に見えない「運」を手に入れるために、正しい行動を積み重ねようとする少年の気持ちに、胸が熱くなります。

原小学校の子どもたちの夢が叶うように、全教職員で「チーム原」としてがんばっていきます。

